

さようならファーストエイジ

四方田直樹

【登場人物】

鷹野梨花（たかのリカ）

1987年生まれ。243歳。最後のファーストエイジ。――ばあちゃん

鷹野萌（たかのキザシ）

2215年生まれ。14歳。鷹野の本家の三男の一人娘。――萌

大多常（おおさわトバ）

2215年生まれ。15歳。大多の長女の長男。おばあちゃんに引き取られて暮らしている。――常

鷹野真知（たかのシンシ）

2198年生まれ。32歳。萌の父親。――真知

細島厘（さいとうリン）

2215年生まれ。15歳。政府より派遣され、鷹野梨花の世話をしている。――厘

緒秦弦軌（おばたゲンキ）2212年生まれ。18歳。役場勤務。――弦軌

丘野見都（おかのケント）18歳。弦軌の中学時代の同級生。――見都

若松（わかまつ）22歳。医師。――若松

林森心（いつきシン）28歳。常の友人のタキ、純の父親。――林森

林森滝（いつきタキ）常の友達。10歳。――滝

林森純（いつきジュン）タキの妹。7歳。――純

大統領（だいとうりょう）27歳。アメリカ合衆国大統領。女性。――大統領

S P 1 大統領の護衛 | S P 1

S P 2 大統領の護衛 | S P 2

妊婦 16歳。――妊婦

妊婦の母 29歳。妊婦のお母さん。――妊婦の母

車掌 22歳。JR北太平洋線の車掌。――車掌

空港職員 23歳。窓口係。――空港職員

平忍（たいらシノブ）24歳。出張がえりのサラリーマン。――平

中村彼菜（なかむらカレナ）26歳。真知の妹、萌の叔母。――彼菜

鷹野現（たかのあらた）  
萌の娘。2245年、おばあちゃんの家滞在していた。14歳。――現

喪服 7	喪服 6	喪服 5	喪服 4	喪服 3	喪服 2	喪服 1
葬儀の参列者。	葬儀の参列者。	葬儀の参列者。	葬儀の参列者。	葬儀の参列者。	葬儀の参列者。	葬儀の参列者。
物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）	物語の進行役（クロス）
――	――	――	――	――	――	――
喪服 7	喪服 6	喪服 5	喪服 4	喪服 3	喪服 2	喪服 1

## 【あらすじ】

医療技術の進歩によって現在の倍ほども人類の寿命がのびたが、その後、悪性のウイルスによって新しく生まれてくる人類の平均寿命が現代の半分ほどになってしまった近未来。新しく生まれてくる者たちにしか影響をあらわさないそのウイルスによって、人類は長寿命の祖父母が短命な子供、孫、曾孫…：玄孫、続いて生まれてくる自分の子孫の死を看取る様な時代に入ることとなった。

いつの頃から、人々は元の長命な世代を「ファーストエイジ」、続く短命の世代を「セカンドエイジ」と呼ぶようになった。

そして、さらに時代は進み、ファーストエイジたちが寿命を迎える頃となった。

長寿の彼らとて永遠の命があるわけでは無い。緩やかにファーストエイジたちの数は減り、最後の一人。1987年生まれ、243歳「鷹野梨花（たかのりか）」を残すのみとなった。

セカンドエイジのみが人類となるほんのすこし手前の時期。

14歳の鷹野萌（たかのぎざし）は、鷹野家の本家の三男・鷹野真知の娘で中学三年生。ごく普通のセカンドエイジの少女。セカンドエイジの平均寿命は35歳程度。萌は人生の半ばに差しかかろうとしていた。

鷹野家の子供たちは小学校から中学校までの9年間のうちに一度だけ、夏休みを「おばあちゃん」の家で過ごすことが決まりになっている。

この年の夏は萌が「おばあちゃん」、鷹野梨花と過ごす番となり、父の元を離れおばあちゃんの家に向かう。

おばあちゃんの家には、萌の遠縁の親戚にあたる大多常（おおさわとば）という萌と同年代にしては幼児のような少年と、住み込みで家政婦のようなことをしている細島厘（さいとうりん）というやはり同年代の少女が暮らしていた。思いがけぬ共同生活にトラブルもあったがそのくらしにも慣れた頃、萌は近所の役場勤めの青年・緒秦弦軌（おばたげんき）の勧めもあって、村祭の踊りに参加することになる。弦軌に淡い想いを抱くようになる萌。しかし、弦軌の気持ちはリンにあることを萌は感じ取る。リンのこれまでの生き方を知り、萌なりの答えを出し、リンと弦軌を結び付ける。淡い失恋に気持ち沈む萌におばあちゃんは萌の父が倒れたとの知らせが来たことを告げる。それはセカンドエイジにとっ

て決して回復することのない、発病の症状だった。

萌はおばあちゃん、常と共に父のもとに向かう。

諸注意が終わり、開演する。  
出演者、舞台に登場。一礼。

1

萌（役の演者） さようならファーストエイジ。

常（役の演者） このお話は今より少し、2000年ほど未来のお話です。みなさんが暮らしている2000年代の前半から中盤にかけて人類の平均寿命は飛躍的に長くなります。1・5倍から2倍くらい。AIだとか量子コンピュータだとかの発達によって人間の新陳代謝やDNAに関する研究が花ひらいた結果です。だからみんな120歳だとか平気で生きるようになって、長いと200歳とか生きるようになります。

喪服6 100歳を超えても寝たきりになるようなケースは少なく、そうですね60歳くらいの状態が長く続くと考えてください。

喪服4 後期高齢者にならないって事？

喪服6 そう、年は取っても比較的元気な時期が続くの。

喪服4 それはいいね。そっか。100歳過ぎても元気で働けたりするわけだ……いいのかな？悪いのかな？

喪服6 その時代の人たちは建設的に考えたみたい。でもね。

喪服4 でも？

喪服7 時を同じくしてある新種のウイルスが古い地層から発見されたのです。それは発病すれば短時間で死に至る病気の病原体となりうるウイルスでした。

常（役の演者） しかし、発見の当初それはそれほど危険なウイルスではないと考えられました。どうしてかというところ。

喪服1 発病しないからさ。そのウイルスに感染してキャリアになっても、人間には抗体があつて発病しないことがわかったから。一度なったら二度とならない病気ってあるだろ？

常（役の演者） はしかとかおたふくかぜとか？

喪服1 そうそう。ちよつとちがうかな。ま、ともかく、病気にはならないんだ。

常（役の演者） しかしそれは、現在生きている人間に限ったことでした。

喪服2 生まれてくる子供たちは初めからこのウイルスのキャリアとして生まれて来た。

胎児の時に母親から2次感染して。

喪服5 ウイルス発見以後に生まれてきた人間には抗体がありませんでした。

常（役の演者） 発病に時間差はありましたが、だいたい20歳から40歳の間に、必ず発病しました。

喪服3 新世紀のペストと呼ばれるようになるその病気は「KALMA（カルマ）」と名付けられました。

常（役の演者） 発病それはイコール死。ウイルス以後に生まれて来た人間の平均寿命はおよそ35歳。いつのころからか人はウイルス発見以前に生まれた長寿な人間たちをファーストエイジ。ウイルス発見以後に生まれた短命な人間たちをセカンドエイジと呼ぶようになりました。

喪服1 別れがあり、悲しみがあり、絶望があつた。

喪服7 戦争になつたりもした。

喪服2 停滞があり、模索があり、諦めがあつた。

喪服5 刹那的な享樂が世界をおおつたこともあつた。

喪服6 そして、結局その現実を受け入れた。

喪服4 ちよつとした発展があり、ちよつとした希望があり、ちよつとした幸せがあった。  
喪服3 それでも人は生きて行くんだと。  
喪服1 2230年。  
喪服7 2230年？ ……もうすぐ人類が一つの世代にもどるちよつと手前だね。  
喪服3 なんて？  
喪服6 ファーストエイジがいなくなるんだよ。最後の一人が死ぬんだ。  
喪服1 舞台は2230年。東京の羽田国際空港から。

萌を残し、一同去る。

飛行機が飛び立つ音、空港の喧噪。  
旅支度をした萌と見送る真知がたっている。

真知、萌に荷物を渡しながら。

真知 ああ、そうだバスタオル。バスタオルもったかい？

萌 おととお父さんから受け取ったじゃない。荷造りしてる時に。

真知 ああ。僕が渡したのか。

萌 でも置いて来たから。

真知 どうして。

萌 だって大きいじゃない。バスタオル。

真知 バスタオルないと困るよ。お風呂から出たとき体を拭くものがないっていうのは

萌が想像 している以上に惨めなものだよ。

萌 わたしは火星に行く訳じゃないの。いくら田舎だからって、おばあちゃんには

バスタオルぐらいあるわよ。

真知 あるかな？ どうだったかな？ 聞いてみようか？電話探してくる。

萌 いいいい（横に首を振る）。ともかく要らないのバスタオルは。それよりも、ほ

んとに大丈夫？

真知 大丈夫だよ。大丈夫。

萌 生物（なまもの）は早めに。夏場は足が速いんだから。ちよつとでも変だと思っ

たら口にいけないでね。

真知 はいはい。汚れ物、汗かいた物はこまめに洗って、それ以外は週末にまとめて、無理に干そ

萌 うなんてしなくていいんだから。こういうときのための乾燥機なんだから。

真知 はいはい。

萌 パンツは引き出しじゃなくてお風呂場の脇の…

真知、両腕を広げる。

萌、真知に抱き着く。

真知 ひと月もお別れ。さびしい？

萌 そりゃ、さびしいさ。

真知 あつというまだよ。夏休みなんていつもそう。あつというまに終わっちゃうもの。

萌 おばあちゃんによろしくね。

真知 ちよつと怖い。

萌 だいじょうぶ。いいひとだよ。

真知 お父さんはおばあちゃんと住んだとき楽しかった？

萌 ああ。ずっと忘れてないよ。

真知 私も覚えてられるかなあ。

萌

真知

萌

真知 大丈夫。大丈夫。

萌、離れる。  
真知を見て。

萌 行ってきます。  
真知 行ってらっしゃい。

萌と真知、手を振って別れる。  
真知去る。

萌（モノローグ）鷹野の親戚のこどもは小中の9年間の中で1回、夏休みをおばあちゃんの家で過ごすのが決まり。今年は私の番。これからおばあちゃんの所に行くの。おばあちゃんとはお母さんのお葬式の時き会って…：あんまりよく覚えてないんだけど…：あ、でもニュースでは良く見る。おばあちゃんはおばあちゃんしかいないからだ。世界にはおばあちゃんはおばあちゃんしかいないからだ。

喪服2、おばあちゃんの人形を持って現れる。

喪服2 どうも。ようこそいらっしやいました！ 萌さん。長旅疲れたでしょう？

萌 おばあちゃん。おひさしぶりです。真知の娘の萌です。夏休みの間よろしくお願  
いします。

喪服2 あら、しっかりとしていること。さすが真知の娘ね。夏休みの間、よろしくね。  
萌 はい。よろしくお願います。

喪服3、男の子の人形を持って現れる。

喪服3 こんにちは萌さん。

萌 あら、あなたがおばあちゃんと一緒に住んでいるという私の遠縁にあたるイトコ  
の男の子なの？

喪服3 そうだよ。おばあちゃんと一緒に住んでいる遠縁のいとこの男の子さ。  
萌 お話聞いています。一つ年上の15歳で、特別な学校で英才教育をうけて来た秀  
才だって聞きました。

喪服3 はは、そんなことなくないんだけどね。宿題わからないことがあったら何でも  
聞いて。夏休みの間、よろしくね。  
萌 こちらこそ。遠縁のいとこの男の子さん。

喪服1 現れ、アナウンスする。

喪服1 長旅、お疲れ様でした。当機はスクラメント国際空港に到着いたしました前の席  
のお客様より順番にお進みください。またの搭乗、お待ちしております。  
萌 は！…：なんだ、夢か！一つ年上のいとこか！頭も良くて、その上カッコよかつ  
たらどうしよう？ふふ…：

喪服たち去る。

空港の到着ロビー。おばあちゃんの姿は無く、一人、常が待っている。

常 俺、常。ヘックション！





萌、マラカスを振るしぐさ。

萌 踊り？それ、私の迎えより大事な事なの？

常 待てないらしい。

萌 おばあちゃん踊るのが好きなの？

常 ばあちゃん？（笑）踊るわけねーじゃん。

萌 知らないよ！

常 怒ってんの？変なやつ。

萌 もう！いいから行こう！おばあちゃんち案内して！

常 俺、わかんねえ。

萌 え？

常 こんなとこ初めて来たからわかんねえ。ははは。

萌 えー！どうするの？

常 弦軌がいるから。

萌 元氣？そりゃ落ち込んでてもしょうがないけど。

常、ロビーに弦軌の姿を見つける。

常 おーい！弦軌！

萌 何？急に？元氣アピール？

常 弦軌ー！

萌 ちよつと、やめて。

弦軌が常の姿を見つけ、やって来る。

弦軌 常。どンドン走ってつちまうんじゃねえよ。

常 迷子迷子、弦軌は迷子。

弦軌 お前だつての！

常 俺はちゃんと萌見つけたもん。

弦軌 は？

弦軌、萌を見る。

萌 初めまして…：：：鷹野…：：：萌、です。

常 ああ、そう！よかった。すぐ見つかった。

弦軌 見つけたの俺！

常 さすがさすが。（萌に手を差し出し）俺、緒秦弦軌って言います。役所に勤めて

るんだけど、ちよいちよい、ばあちゃんの様子みる担当やってね。今、厘が、

あーばあちゃんの世話をしてる人がしばらく留守にしているから、代わりに買い物

行ったりね。まあそんな感じ。怪しいもんじゃないから。な？常？

常 うん。

萌 そういう事。

弦軌 はい。

萌 えーそれで、えーと。なんだっけ？

弦軌 あのおばあちゃんは？

萌 あ！そうそう！

弦軌 サンバしに行つたって聞きましたけど。

弦軌 うん。俺のダチの奥さんんだけど、陣痛が始まっちゃってよ。

弦軌 病院で出産はするんだけど、ばあちゃんが手伝うんだ。生まれてくる子が、ばあ

弦軌、車を発進させる。  
しばらく運転。

常 「ヒラサカが暗闇なら我が身より生みやどりし炎、導べとしてさしだしましょうぞ」。

萌 運転中に騒がないで！

弦軌 ははは。怒られた。

萌 それを？何？お祭り？

常 うん。お祭りでやるの。

萌 あそう。

常 かぐ…や？。

弦軌 家具屋じゃねえよ。常。神楽。

萌 神楽？

弦軌 子供達がやるんだよ。奉納の舞っていうかお芝居？

常 やるの。今年。タキもやるの。

萌 タキって誰？

常 純のにいちゃん。

萌 だから…じゃ、ジュンって誰よ。

常 6月生まれだからジュンっていうんだ。

萌 名前の由来なんか聞いてないでしょう！

弦軌 常の友達、だよな？

常 うん。

弦軌 常以外はみんな、小学生だけだな。

萌 日本人が多い地域なんですか？

弦軌 え？何？

萌 神楽って日本のお祭りでやる。

弦軌 ああ。うん。そう。日本人というか、ルーツがそうって人が多い地域。ばあちや

萌 ンがいるからかな？

弦軌 おばあちゃん？

萌 昔は日本から来たファーストエイジの人たちも多かったって。

弦軌 そうなんですか。

萌 見えて来た。あそこの病院。

弦軌、進行方向を指差す。

若松医院（小児科・産婦人科）。

若松医院は小さな町医者。

先生）があとをついでいる。  
先代からあとをついだ長男（おにいちゃん先生）が2年前に亡くなり、今は次男（弟

弦軌 すみませーん。入りますよ。かかりつきりかな。ここの病院、看護師は2人しか

常 いないんだ。

常 俺、外で遊んでいい？

弦軌 おう、そうしろ。萌さんは？常と遊んでる？  
萌 いいえ。行きましよう。

ロビーで子供が生まれて来るのを待つて居る夫、丘野見都と会う。  
体調が悪そう。

見都 弦軌。

弦軌 おう。なんだ？ふらふらじゃねえけえ？

見都 はは、心配であんま寝てねえんだ。

弦軌 こいつ、ダチの丘野見都。歩ちゃん、ちゃんは変か？

見都 あー、一応母親になるからなあ。

弦軌 どうなん？

見都 鷹野さんの話だと、ちよつと難産だとか。

見都 うん。弦軌、どなた？

弦軌 ばあちゃんの、あ、鷹野さんのお孫さんでキザシさん。

見都 ああ、そうなんだ。今日は手伝いに来てくれたんだ。ありがとう。

萌 いえ。たまたま。

弦軌 えれえ顔色わりいで。座れよ。

弦軌、見都に席（ベンチ）を進める

見都 わりいんね。

見都、ベンチに座る。

弦軌 しかし、お前が父親なんてなあ。

見都 お前こそどうなんだよ弦軌。18にもなつて独りモンで相手もいねえんだろ。俺はさあ、一日（いちんち）でも長く子供といられた方が幸せだと思うぜ。

弦軌 お前がか？子供が？

見都 両方だよ。で、どうなんだよ。

弦軌 うーん、俺はよ。そう割り切れもできねえんだよな。結論が出ねえっていうか。結論なんかなくたってさ、できるもんだ。子供も家庭……。

見都、倒れる。

弦軌 見都。

見都に駆け寄る2人。

弦軌、見都の額に手を当てる。

弦軌 こいつ熱があるよね？

萌、見都の額に手を当てる。

萌 すごい熱です。

弦軌 おい！見都、見都！

萌、オロオロ、うろろとする。

弦軌 医者は！ ……ここかあ。小児科と産婦人科でも診てくれるもんかな？  
萌 えっと、ごめんなさい。わかんない。でも一応お医者さんだから。  
弦軌 おい！ 見都！ しっかりしろ！ 今すぐ若松の弟先生がお前の子供ひっぱりだしてくつから。

萌はやつぱりオロオロしている。

弦軌 見都、おい見都。目えつぶるんじゃないよ。これから子供が生まれてくるんじゃないねえけ。

弦軌、一瞬、自分の父親が死んだときのことを思い出す。

萌 (独り言) ばかなことかかんがえんな！

弦軌 ごめんなさい。

萌 あ、ごめん違うんだ、ひとりごと。ねえ、君のご両親はまだ健在？

弦軌 健在？

萌 ああ、えっと…いいや、生きてる？

弦軌 お父さんは…。お母さんは五年前に。

萌 KALMA (カルマ)？

弦軌 はい。

萌 そうか。ウチは二人ともね。

弦軌 病気で死ぬ人の原因はほとんどKALMAですから。

萌 こんなじゃなかったかな。

弦軌 はい？

萌 君のお母さんのときも。

弦軌 え？

萌 ウチはそうだった。オヤジ、突然倒れて、すごい熱で…意識がもどんなくて、3日目に…。

萌、見都を見る。

弦軌 なんだよ、このタイミングじゃなかったっていいじゃないか！

若松先生がやってくる。

若松 生まれたよ丘野さん！ 生まれたよ！ 2130gのちっちゃい赤ちゃんだけど。母子ともに健康だよ。さあ、男の子だと思う女の子だと思う？ どーつちだ？

若松、弦軌と目が合う。

弦軌 先生。見都が大変だよ。

若松 はい？

若松、見都を見る。

若松 緒秦君…  
弦軌 どうなの先生？

若松 大変？  
弦軌 疑問形はやめてくれよ先生。どうなの？  
若松 どうなのって、僕の専門は産科と婦人科だから……  
萌 KALMAですか？  
若松 軽々しくいうものじゃない。ちゃんと診察しないと。  
弦軌 じゃあ診察してくれよ。  
若松 だから僕の専門は産科と婦人科なんだよ。  
弦軌 なんとかならないの？  
若松 なんとかかって？

おばあちゃんがやってくる。

おばあちゃん 先生、取り出すだけが医者の仕事じゃないでしょう？  
弦軌 ばあちゃん！ 見都が！  
萌 おばあちゃん。  
おばあちゃん 萌か？  
萌 はい。  
おばあちゃん 悪かったね。迎えに行けなくて。  
萌 ううん。  
若松 丘野さん。丘野さん。聞こえますか？ 丘野さん。

おばあちゃん、見都に近づく。

おばあちゃん 何があった？  
萌 急に倒れたの、すごい熱で。私、どうしよう。おばあちゃん。  
おばあちゃん 萌、あんたはどうもしいよ。先生、熱はどれくらいある？  
若松 40は確実に。だけど。丘野さん！  
弦軌 ばあちゃんはどうなんだよ？ なんとかならないの？  
おばあちゃん 弦軌、常は？  
弦軌 その辺で遊んでる。  
おばあちゃん 呼んで来な。  
弦軌 そうか。おばあちゃん。  
おばあちゃん いいから呼んできな。

弦軌、裏口から出て行く。

おばあちゃん 専門外で悪いがどう思う？ 先生？  
若松 なんともいえませんが……死に至る病かもしれない。でもただのはやり風邪の可能性もある。  
おばあちゃん そう。先生、育児機から子供を出して連れてくることってできる？  
若松 短時間なら、  
萌 どうするつもり？  
おばあちゃん 記憶はなくても親の死に目に合えたっていう記憶は私たちから伝えてやればいい。  
萌 どういうこと。おばあちゃん。それじゃまるで。  
おばあちゃん 可能性の話だ。奥さんも、先生。  
若松 でも。  
萌 先生はただの風邪かもしれないっていつてるのよ。

ばあちゃん 可能性に善し悪しはないよ。  
萌 赤ちゃんが生まれたばかりなのよ。

ばあちゃん 全く違う論点だ。

萌 違うくない。神様は絶対にそんな試練を丘野さんにあたえたりはしない。きっと違う。

ばあちゃん 丘野はいいよ。でもね。生まれて来た子供はこれから生きて行くんだ。

萌 どうしておばあちゃんはそんな酷いことが言えるの？

ばあちゃん 酷いことがあるか。

若松 お子さんは呼べません。

ばあちゃん どうして？

若松 風邪の可能性があるので。抵抗力のない新生児にうつったら丘野さんじゃなくお子さんの命が危ない。

ばあちゃん なるほど。正論だ。

弦軌が帰ってくる。

弦軌 ばあちゃんつれてきた。

常 なんだよ。急に。

弦軌 で？ どうすんだ？

常 検査？ 検査やだ？

ばあちゃん、常に近づく。

ばあちゃん ああそうだ。

常 やだ！

弦軌 こら、あばれんな。

弦軌、常を羽交い締め。

常 やだ！ 検査やだ。

萌 こんどきになにいつてるの？

ばあちゃん そんなにいやかい？

常 いやなの知ってるだろ！ バカ！

ばあちゃん じゃあこうしよう。丘野って知ってたか？

常 知らない。

弦軌 俺の友達なんだ。

常 だから？

ばあちゃん KALMAかもしれないんだ。

常 やだ。診ない。診ない。

ばあちゃん じゃあ検査だね。

常 やだ。

ばあちゃん どっちかだ。

常 ……わかった。

弦軌、ばあちゃん、見都を見る。

弦軌、常を離す。

常、見都に近づく。

常 先生。聴診器ちょうだい。  
若松 あ、ああ。どうだろうか？

常、聴診器を見都の胸にあてる。

常 先生はどう思った。  
若松 いや、ぼくはKALMAについては講義の知識しかないから、確かなことはいえないけど。

常 いいから。

若松 彼は今年確か18か9だよねえ？ 緒秦君？

弦軌 19です。今年で。

若松 10代でのカルマの発病率は確か1万人だか1万5千人だかに一人じゃなかったかなって。

常 2229年一年間では約1万3千500人に一人。

若松 そうか。25歳までだとぐっとあがって。

常 87人に一人。30までで3人に一人。32歳で2人に一人。

若松 確率の話だよ？ 1万人千人に一人だよ。そうじゃない可能性の方が高いってだけさ。

常 0じゃないよ。

若松 ああそうだね。

ばあちゃん 先生。新生児と母親はほったらかしでいいのかい？

若松 あ。

ばあちゃん 常に任せて、先生は。

若松 はい。僕では……うん、頼みました。

常 はい。

若松、分娩室に去る。

常 ばあちゃん。

常 もうちよっと。もうちよっとめいかくなしゅつけつけいこうがかくにんできないと。かくていはいできないの。

常 しゅつけつ？

常 KALMAははつびようするとしんけいしつかんおよびフィブリノゲンけつぼうしよう、ふあんていしんしけつぼうしようをへいはつする。ゆえにKALMAにゆるしいんのだいいちいしゅつけつたりようなの。

弦軌 フィビ？ 不安定いんし？

常 ぎょうこいんしだよ。けつえきちゆうの。

常 ぎょうこいんし？ って？

常 ぎょうこいんしはぎょうこいんしだろ？

常 だろっていわれても……。

常 ばあちゃん 血液中のタンパク質。全部で13種に分類。その1つが欠けても血が止まらなくなる。

常 KALMAにはつびようしてまったくしゅつけつせず死ぬ人は50万人に一人。

常 さらに十代での前例はまだかんさつされてない。

弦軌 じゃ、見都は？

常 まあ、はんだんざいりようはそれだけじゃないんだけど。若松せんせいがあった

とおりたぶんかぜ。

弦軌 ただの風邪なんだな？……よかった。

常、聴診器を弦軌に投げ渡す。

常　よくないよ。風邪なめんなよ。40度まで行く風邪なんて、へたすると命にかかわるんだから。もういい？俺、タキンちいくよ。検査はしないからね。

常、去る。

ばあちゃん去る。

弦軌の車。

萌、助手席に乗っている。

弦軌　ばあちゃんと一緒にばあちゃんちで降りてよかったのに。

萌　いえ。

弦軌　わるかったんね。見都んちまでつきあってもらって。

萌　よかったですよ。丘野さん。

弦軌　あ？ああ。うん。熱が下がるまでは子供に会えねえけどなあ。

なんだかちよつとしゅんとなっている萌

弦軌　どうしたの？酔った？

萌　あ、いえ：わたし、結局お祈りするぐらいしかできなかった。

弦軌　は？

萌　わたし、役立たずでしたね。

弦軌　あ。気にしてる？なに、俺も役立たずだったよ。

萌　常にもあやまらなくっちゃ：

弦軌　なんか謝らなくちゃいけない事したっけ？

萌　私、バカにしてみました。私より年上なのに子供みたいって。

弦軌　ああ。ばあちゃんちに来るまえの常のこと、聞いてる？

萌　えっと、特別な学校にいたって、

弦軌　学校じゃなくて研究室。常はね。生まれてすぐ研究室に入ったんだ、常のお母さ

萌　んが親権を放棄して。

弦軌　研究室？

萌　KALMAをなおす方法を見つけるための研究室。常はKALMAを研究するこ

弦軌　と以外ほかににも教えてもらえずに育ったらしい。その子はみんなそうなん

萌　だっ。

弦軌　何もって？国語とか、体育とか？

萌　着替えの仕方、ご飯の食べ方、トイレの行き方、人が親から教わることすべて。

弦軌　：：：どうして？

萌　時間がない。俺たちセカンドエイジには、生まれて死ぬまで30年くらい。20

弦軌　歳で研究を始めたとしたら10年しか残らない。めいっばい研究を続けるには生

萌　まれてすぐの子供にKALMA以外の事を教えないのが一番だ。そうして世界中

弦軌　から潜在能力の高い子供を集めて研究所をつくったんだって。常はそこを落ちこ

萌　ぼれた。

弦軌　そんなことまでして研究する必要があるんですか？

萌　ある、と思う人が、人たちかな、いたんだとおもう。人類の危機だと。非常事態

弦軌　だと思った。老いずに死んで行く時代なんてって。

萌　：：。



弦軌 君はやさしいんだね。  
萌 え？  
弦軌 着いたよ。

車を降りる萌。

萌 あの。ありがとうございます。

弦軌 敬語は止めてくれる？

萌 でも、弦軌さん年上だし。

弦軌 君とは友達になりたいんだ。そう思ったんだ。

萌 あ、はい。

弦軌 だから気にすることない。

萌 だからって？ なにがだからなんです。あ。

弦軌 ははは。うん。じゃ、また。俺、子供達の神楽の練習も見てるから、よかったら

萌 常と一緒にきてよ。

弦軌 はい、行きます。あの、ありがとう。

萌 うん。じゃあ。

萌、手を振って別れる。

萌、おばあちゃんの家の玄関へ。

萌 お邪魔します？んー……ただいま帰りました！

おばあちゃん、萌を迎え入れる。

萌 おかえり。丘野はおちついたか。

萌 たぶん。

萌 おかえり。大丈夫。

萌 おかえり。私は疲れた。夕食を食べて風呂にはいつて早く寝てくれ。

萌 ええ？

萌 おかえり。

萌 ください。常。常って呼んでいい？

萌 は？常じゃなかったらなんて言うんだよ。俺はおおさわとば。お前は萌だろ？

萌 え、鷹野萌……。そうだよ。

萌 変なの。

萌 あんたのほうよ。

萌 あん？ ふふふ。

萌 あん？ ふふふ。

おばあちゃん、パツクに入ったゼリー状の食べ物を持って来る。

萌 おばあちゃん、ほら、夕食だよ。

萌 え？ゼリー？晩ご飯これ？

萌 おばあちゃん、食事を作るやつが不在なんでね。栄養あるよ。

萌 こういうのは非常食みたいなものでしょう？

萌 おばあちゃん、料理だめだから。

萌 ウソ。おばあちゃんに200年も生きてて。

ばあちゃん できないものはできないの。  
萌 だからって。  
ばあちゃん じゃ、あんたがやんなさい。  
萌 はい？  
ばあちゃん やりたいひとがやる、そうでしょ？  
萌 もちろん。これでもお母さんが死んでからずっと家事をして来たんですから。遠慮なくやりますから。  
ばあちゃん なに遠慮なんてしてたのさ。  
常 遠慮、遠慮、キザシは遠慮マーン。  
萌 マンじゃない。材料は？  
ばあちゃん 一通りあるからなんでも使いな。  
萌 よーし、常、びっくりさせてやるぞ。  
常 びっくりするのか？ びっくりするのか？

萌、常、台所に去る。  
廊下に置かれている固定電話のベルがなる。  
ばあちゃん、電話に出る。真知からの電話。

ばあちゃん もしもし、ああ。うん。元気だよ。ああ。無事についたよ。

真知が現れる。手に固定電話の子機。

真知 迷惑かけると思いますがよろしくお願ひします。  
ばあちゃん お互い様だ。私もあの子に迷惑かけるから。違う環境で普段の自分で居る

には技術がいる。

真知 そうですか？

ばあちゃん 真知、お前はそうでもなかったけどなあ。

真知 おぼえてますか？

ばあちゃん すべてとはいわないが。そんなことがあったことは。

真知 そうですか。あの子はこの夏休み楽しく過ごせるでしょうか？

ばあちゃん さあ？まあ、途中で帰るなんて言い出しはしないと思うけどね。

転

萌がおばあちゃんちに来てから1週間ほどのち。  
公民館。

常（キツネ面）、純（キツネ面）、タキ（キツネ面）、ほか。お祭りのお芝居の練習中。  
脇で椅子に座って見ている萌。  
腕を組んで見ている弦軌。

常 父様の使いですか？

タキ オヤジ？ あの人が、り、りくつ？ でことう？ などするものか。

常 ならなぜ？ 私を止められるか？

タキ ……？

弦軌 せつり。

タキ せつり（尻上がり）だよ。せつり（尻上がり）。

弦軌 せつり（尻下がり）。

タキ せつり（尻上がり）。

純 （仮面を取り）もう、お兄ちゃん。ちゃんと覚えてよね。

タキ あ、うん。せつり（尻上がり）だよ

純 せつり（尻上がり）。

常 純も違うぞ。

純 せつり（尻上がり）。言ってるでしょ？

首を振る常。

常、タキ、純で「せつり」の言い合いになり収集がつかなくなる。

弦軌 はいはい。やめやめ。時間だからこのくらいにしておこう。  
子供たち はーい。

片付け始めるみんな。

純 もーだめなんだから。

タキ ごめん。

弦軌、アイスをもってくる（カップのかき氷、イチゴとメロンとみぞれ）。

弦軌 ほーら。かき氷。一個ずつ、もってけ。

アイスに詰め寄る子供達。

イチゴとメロンが売れて行く。

弦軌 白いのほしい奴いない？

常 かってくんなよ。白なんか。

弦軌 萌も一個とんなよ。

萌 でも私見てただけだから。

弦軌 いいよ。別に。

純 ずるはいけないんだ。

萌 （笑）だって。

弦軌 じゃ、次からは萌もやろう。

萌 え？ 無理よ。  
弦軌 踊りおぼえなよ。簡単な盆踊りだからさ。この辺の人間は皆踊れるんだ。  
萌 ……うん。  
弦軌 じゃ、これは前払い。(純に) いいだろ？  
純 まあいいけど？ じゃあね、緒秦さんさよーなら。常ちゃんまたね。  
常 ー。  
弦軌 おう、今度はあさってな。  
タキ ばいばい。  
常 ー。  
弦軌 セリフ覚えて来いよ。  
タキ ー。  
萌 さようなら。

タキ、純、去る。

常 萌、腹減った。  
萌 まってよ。帰って支度するから。  
弦軌 萌がつくってんのメシ？  
萌 あ、うん。  
常 うまいよ。  
弦軌 ほんとけえ。へー。  
萌 ……良かったら…弦軌さん、食べに来ます？  
弦軌 え？ いいの？  
萌 おばあちゃんち、材料いっぱいあるから。(常に) ね？  
常 ー。  
弦軌 お言葉にあまえっかな。じゃ、俺、ここの鍵もどして報告かかなきやだから一回  
役場もどるわ、してから邪魔するわ。  
萌 あ、ちようどいいと思う。  
弦軌 ん、じゃちよつと行ってくる。  
萌 はい。行ってらっしゃい。  
弦軌 はは。いつてきます。

弦軌去る。

常 いこうぜ。  
萌 あ、うん。ふふ。  
常 なんだよ？  
萌 え？ なんでもないよ。あ、常、かき氷いる？  
常 くれんの？ なんで？  
萌 あ、ほら、なんていうか、ほら、ほめてくれたじゃない。料理。  
常 へんなの？  
萌 まあいいじゃない。欲しいの欲しくないの。

おばあちゃんちの前。  
アロハにメガネの男(大統領のSP)が2人、立っている。  
常、じつと2人を見る。

萌 常？

常　　　　　うちの前に変なのがいる。  
萌　　　　　え？

萌、2人を見る。

萌　　　　　ほんとだ。どうしよう……。だれかに……

常、SP2の股間を蹴り上げる。

常　　　　　やー！

萌　　　　　常！

SP2　　　　うお！

常を受け止めるSP2。

SP2、常を羽交い絞めに。

SP1　　　　なんだ？

常　　　　　うちのまえでなにしてる！

SP2　　　　このうちの男子か？

常　　　　　そうだ。

SP2、常を解放する。

SP2　　　　我々は怪しいかもしれない。しかし、だからといって突然攻撃をかましてもいい

　　　　　ということではないのではないか？

常　　　　　　わかんない。

SP2　　　　わからないのなら仕方がないのでこれ以上会話するのはやめ。

SP1　　　　行こう。

SP2　　　　そちらの女子も脅かしてすまなかった。我々は決して怪しいものではない。鷹野

常　　　　　　さんの客の周辺警護をしているものだ。(常に)じゃあな。

常　　　　　　まてよ。

SP1、2去る。

おばあちゃんちの居間。

おばあちゃんと大統領が「3DS」で通信対戦している。

大統領　　マヒなんてしてんじゃねえよ！

おばあちゃん　　スピード半減だね。

大統領　　なら。

大統領、ポケモン入れ替え。

しかし、おばあちゃんおみとおし。

おばあちゃん　　かえてきたね。

大統領　　へへ。

おばあちゃん　　ご愁傷様。

大統領　　え？



大統領 でも、まだ10代でもいけるかなあ？なあ？  
リン 気にしなくてもいいわよ。この人はすぐ帰るから。ウチの上司で梨花ちゃんの友達なの。

萌 りかちゃん？

ばあちゃん 私の名前。

常 はらへった。リン。

リン ちよっと、まって、すぐできるから。

萌 あ、あの。

リン なに？

萌 あ、うん。夕ごはん。

リン うん？

萌 ええと。もう、できちゃってるの？

リン うん。だいたいね。あとはご飯が炊き上がるの待つだけ。

大統領 パンはない？

リン テンプラにパンは合わないって。

萌 テンプラ…。

リン どうしたの？

萌 あ、うん。いいの。べつに。

リン それは、よくないって言ってるようなものよ。

ばあちゃん 萌、お前、今日も自分で作るつもりだったんだろ？

リン そうなの？ やっぱり？

常 さっきそう言ってた。

萌 常！

チャイムが鳴る。

萌 はい。ちよっとまってて。

萌、出て行く。

大統領 なに？

常 弦軌だ。

リン 緒秦くん？ なんで？

常 ごほんによんだの。

ばあちゃん お前が？

常 萌だよ。

ばあちゃん 萌が作るからって？

常 うん。

リン だから。

弦軌、萌の順で戻ってくる。

弦軌 はは、気にすることないって。俺、食わしてもらえればなんでも喜んでじゃうよ。

萌 あ、うん。でも。

弦軌 ばあちゃん、わるいね。

ばあちゃん お前なんかよりたちの悪いのが寝泊まりしてるから大丈夫だよ。

大統領 言われてるぞリン。

ばあちゃん お前だよ。

弦軌、大統領に会釈。

弦軌　ばあちゃん「ナス」食う？　もらいもんなんだけど。

ばあちゃん　わるいね。

弦軌　なんの。

ばあちゃん　リン。

ばあちゃん、リンに「ナス」を受け取るように示す。

リン、弦軌の近くに。

弦軌　おかえり。いつかえってきたの？

リン　今日の午後に。

弦軌　何日か姿が見えなかったから。

リン　言っただけだったでしたっけ？　研修だって。

弦軌　そうだったっけ？　言われたかな。

リン　リカちゃんは知ってたわ。

弦軌　ばあちゃんはなんも教えてくれねえからなあ（笑）。

なんだかそんな様子を萌は見ている。

常　リン。

リン　すぐ、もってくるから。

弦軌　リンの料理食べるの久しぶりだ。

リン　今度は萌さんのも食べてあげてくださいね。

弦軌　もちろん。また、ずうずうしくごちそうになりに来てもいいかな？

萌　あ、うん。いつでもいいでしょ？　おばあちゃん。

ばあちゃん　…まあね。萌がつくりたいならね。止めないよ。

弦軌　あのさあリン、俺、今年、お祭りの子供の指導員やってんだ。

リン　そうなんですか？

リン、弦軌と目が合う。

弦軌、目をそらす。

弦軌　常もだいぶ上達したよなあ。

常、立ち上がり。ポーズ。

常　「母様どうかお許してください。人間をただ一つ、ただ一つだけ黄泉よりかえして

やりたいのです」

大統領　（常に）おお、お前が主役か？

常　うん。

と、いった会話に被るように

弦軌　よかったら、リンも見に来ないか？

リン　でも、お邪魔でしょう？

弦軌　いや、どう今年は踊りおぼえたら。せつかくばあちゃんとか、居んだから、



リン どう今年はお祭り参加してみたら？  
でも。

弦軌 大丈夫、萌もやるっていうからさ。(萌に) だよね？  
リン 本当？

萌 あ、うん。  
弦軌 だから、どう？

リン うーん、考えてみる。  
弦軌 うん。考えてみて。

萌 ばあちゃん 夕食にしよう。食べながらだって話は出来るだろ。  
ばあちゃん お行儀わるいわ。  
萌 ばあちゃん 可能、不可能の話だよ。萌。

リン、去ろうとする。弦軌、それを追うように。

弦軌 あ、手伝うよ。

リン 大丈夫。

萌 ばあちゃん 小さい方のテーブル、持ってきてくれないか？この人数じゃ一つじゃ足りない。

弦軌 わかりました！

常 腹へった。

大統領 お前も手伝えよ。

転

その晩。

萌 おばあちゃんちの固定電話で真知に電話をかけている萌。  
固定電話の子機を持って現れる真知。

真知 どうせ、ぼくといるよりも楽しいんだね萌は。

萌 すねないでよ、お父さん。だからあやまつてるでしょ。

真知 着いたって連絡のあと一週間音沙汰なしだったじゃないか。

萌 でも、お父さん、おばあちゃんには何度か電話してるでしょ。

真知 まあ。ね。しかし、それとこれとはちがうのだと思うのだよ。

萌 どう？ どうちがうの？

真知 僕が萌を心配する気持ちと萌が僕を心配する気持ちに開きがあるということなん

萌 だ。これはなんとというか、愛なんだよ。愛の開きなんだ。アジじゃないよ？

真知 はいはい。お父さんありがとう。大丈夫。お父さんを嫌いになっただんじやないん

萌 だから。お父さんは空気みたいなのかい？ なにかいやなたとえかい。

真知 それは…ほめられていないのかい？

萌 そうか。うん。なくちゃいけないものなんだね。

真知 ひどい娘さんだ。君は。

萌 ごめんなさい。

真知 寂しくなったら、いつでも帰っておいでよ。

萌 大丈夫。

真知 そう。

真知

萌 お父さん、やっぱり寂しいんでしょ？  
真知 寂しいさ。でも、仕方がないんだね、こればかりは。君は君で、僕じゃないんだから。

萌 何、当たり前じゃない。

転

午後。おばあちゃんち。

祭りの練習のある日。

リンは居間で本を読んでいる。

萌がやってくる。

リン あれ？

萌 あ、うん。

リン 今日、踊りの練習じゃないの。

萌 今日はお休み。リンこそ。行かないの？

リン うーん。私もお休み。

萌 そう。でも、一度も来てないじゃない？

リン そうね。

萌 行きたくないんだったらそう言おうか？ 弦軌さんに？

リン うん。そうね。言っておいてくれるかな？

萌 あ……うん。

リン 萌は……

萌 なに？

リン うん（と笑う）。わすれちゃった。

萌 そ、へんなの……。リンは。

リン うん？

萌 弦軌さん、

チャイムがなる。

リン、モニターに出る。

リン あ、はい。ちょっと待ってください。

萌 だれ？

リン 林森さん、ほらタキ君と純ちゃんの。

萌 お父さん？ 私、行く。

リン いいわよ、私が

萌、玄関へ。

リン、萌の態度がかわいらしい。

リン ふふ。

林森さんやってくる。

萌、もどってくる。

萌 あの、おばあちゃん、留守ですから。

リン こんにちは。

林森 あついねえ。  
リン 外は夏ですから。  
林森 近くきたもんだから、うちの子がいつもお世話になってるから。これ。

と、なにか、果物がはいったビニール袋を渡す。

リン どうもすいません。お気遣いなさらずに。

萌 あたし、お茶入れてくる。

林森 いいよ、いいよ。すぐ、引き上げるから。

萌 はあ。

リン なにか御用でも？

林森 うーん。あんたがいれば、まあ、いいか？

リン なんですか？

林森さん、ちよつと迷ったあとで。

林森 お祭りの子供の芝居のことなんだけれどね。うん。

リン はい。

林森 君のところの常くんが主役をやるでしょう？

リン ええ。楽しみにしていますよ。常、今日も練習で、ね？

萌 うん。

林森 そうか、楽しみにしてるかあ、うーん、でもなあ。楽しみにしてるのは彼だけ

リン じゃないんだよねあ。

林森 どういった御用なんですか？

リン あーいや、うん。いや、そこまで言うんじゃねえ。まあ。言うつもりはなかった

萌 だけけれど、まあ、ぶっちゃけた話ね、常……君がやる役ねえ。どうだろうウチ

林森 の子がやったらいいんじゃないかと思うんだが？ どうだろうか？

萌 もう二ヶ月もまえから、配役は決まっていたはずですけど？

林森 だからこうしてわざわざでむいてこうして頭をさげてるんじゃないか？

萌 だって、常は。

林森 無理は承知だよ。でもそうすべきだと思うんだよねあ。どうだろうか？ 君（リ

ン）か鷹野さんが説得してくれたら……

リン 常、は役を変わるつもりはないと思いますよ。

林森 あんな知恵遅れがやったらかっこがつかないだろ？

リン すいません。おかえりください。

林森 や、あ。うん。ああ。みんなどうかしてるんだ。どうしてあんな子を？

リン すいません。お帰りください。

林森 大人をばかにするのもいいかげんにしろ。

大統領 そのくらいにしときなつて。

大統領、やってくる。

大統領 あんまりそいつ怒らすと、怖いぞ。そいつは言葉で人が殺すぞ。

リン 勝手なことというなよな。

大統領

大統領 わたしらはそういうつもりでお前を作ったんだから。  
林森 なんですか、あなたは？  
大統領 鷹野さんの知人でこいつのオーナーですよ。  
林森 口をださないでくれないか？ これはこの町の話だ。  
大統領 はあ。聞こえないなあ？ なんですか？

大統領、椅子に座る。

林森 口を出すなど言っているんです。  
大統領 もういいよー。(とSPに合図)

左右からSP1、SP2出てくる。  
林森さんを囲む。

林森 暴力か、言葉でかなわないから暴力とは短絡的だな。  
大統領 犬にトイレを教えるのに言葉で説明なんてしないだろ？

リン 犬はちゃんと言葉でしつけられるよ。

大統領 じゃ、犬に劣るのか。  
林森 ばかにするのか。え？

SP1 ままままま。おさえて、あれで結構偉い人なんだよね。あの人。  
SP2 人間的には最悪の部類だけどな。  
林森 偉い？

と、大統領、自分を指す。

林森 しんじられないな。

大統領 じゃ、よろしく。

SP1・2 はいよ。

SP1・SP2、林森さんに近づく

林森 別に帰らないなんて言っていないだろう。(リンに) じゃあ細島君、鷹野さんによろしくたのむよ。

足早に去る、林森さん。

リン まったく。

大統領 助けてやったんだぞ。

リン あのままで帰ったわ。あなたはあなたの自己満足を満たしたに過ぎない。  
大統領 いいだろ？ 自己満足を形にする力があるんだから。なあ、ばあちゃん？

おばあちゃん、やってくる。

ばあちゃん どうでもいいんだろ？ お前にとっちゃ、人の意見なんか。  
萌 おばあちゃん。

ヘリコプターの音。

S P 1 迎えが来ました。

大統領 まじか

S P 2 マジです。

大統領 短い夏休みだったなあ……まあしゃあない。じゃ、帰るわ。リフレッシュできた。

リン、またな。

リン 当分いい。

ばあちゃん 楽しそうだなお前はいつも。

大統領 あん？

ばあちゃん お前ほどこの時代に生まれたことを楽しんでるやつはなかなかいない。

大統領 あたりまえだろ？ 100とか150とかのじいさんばあさんになってまで政治

やってた時代じゃあ、20代で権力なんて握れなかったんだから。時代に押し潰されて、緩慢な滅びを受け入れるなんざバカだ。なのにみんなわっかんねんだよなあ。なあ？

S P 2 なにいつてんだかさっぱりわかんねえッス。

大統領 分かりやすいたとえでな、例えばファーストエイジだ。ばあちゃん。わたしは、

ファーストエイジなんていらなはずと思ってる。今すぐあんたが死んでくれたらって思う。人間は200歳まで生きられる、現に一人まだ生きている。そんな細い希望があるから、民衆は今を受け入れない。

リン 極論。

大統領 極論だよ。だけどさあ、ばあちゃんが生きて来た、人生だとか、経験だとか、知識だとかいらねえもん。私べつに。ファーストエイジなんて、初めからいなかった。昔から人間の寿命は30前後。それでいいじゃないか。だから、お前も要らない。リン。

S P 2 たく。すいませんね。どうも。口がわるくって。

大統領 私の力だけで子供を実験台にする計画なんてとめられたらいいんだけど。なかなか

ばあちゃん かそうもいなくてね、残念。

大統領 それより先に私が死ぬよ。多分。じゃあねえ。

前後にS P 1、2を伴って大統領去る。

ヘリコプターのフォバリング音が大きくなる。

リン やなやつ。

ばあちゃん 嫌うだけ無駄だ。

転

お盆ごろ（旧盆ですので8月中旬）。  
お祭りの日の午後。

遠くで火花が上がっている。

遠くからかすかに太鼓の音や笛の音が聞こえる。

ばあちゃんちで、弦軌と萌が常の準備を待っている。

弦軌 （二階にむかって）常あ、はやくしろよお！

二階から常の声「まってえ」

弦軌 おいてぐぞお。

常（声）まってよ。

弦軌 萌も踊りにくるんだろ？

萌 セっかくならったし。

弦軌 浴衣着るの？

常 おばあちゃんのお古。

弦軌 ばあちゃんのか？へえ。

弦軌 リンはどうすんのかな？

萌 リン？ゆかた？

弦軌 あ、うん浴衣。それに踊り。

常 一度も練習きてないよ。リン。

弦軌 おどれねえことねえと思うんだけどなあ。

萌 弦軌さんは、リンのこと好きなの？

弦軌 うん。

間。

ゆっくりと弦軌、萌と目を合わせる。

弦軌 ……分かるもん？

萌 うん。

弦軌 リンも分かってるかな？ やっぱし。

萌 さあ、リン、ちよつと抜けてるとこあるし。

弦軌 そうだよね。いや、いいのか、悪いのか？ 俺、もう大人って言われる年だけど

代でもさ。リンよりすごいやつはいない。

常、弦軌を呼ぶ。

常、弦軌を呼ぶ。

常（声）弦軌ちよつとききて！

弦軌 （二階の常に）ん？どうした？（萌に）あのさ

萌 常（呼んでるよ）

弦軌 あ、うん。また。

弦軌、去る。

萌、胸をつかんで少し前かがみになる。  
リンとおばあちゃんがやってくる。  
浴衣をもっている。

リン　ねえ、見て見て、これリカちゃんが着てたやつだって。

リン、広げて見せる。

リン　どうしたの？

萌　ほんと？　ほんとにこういうの着てたんだ。

ばあちゃん　どうする今着るかい？

萌　リンは？

リン　わたしも？

萌　リンも着ようよ。

リン　うーん。じゃ、あとで。

萌　じゃ、わたしもあとでいい。

弦軌戻ってくる。

弦軌、ばあちゃんを見、チラッとリンを見る。

弦軌　常のやつちゃんとお面持ってたよなあ？

萌　え？　うん。多分、リュックの中に。どうしたの？

弦軌　ねえんだ。お祭り用のお面が。

常、やってくる。

常　お面！

常、一階の部屋でお面を探し始める。

常　ない！　ない！　ないよ！

ばあちゃん　ない！　駄目なのか？

弦軌　あるよ、予備のヤツが、神社に。

萌　じゃあそれで。

常　だめ。あれじゃなくちゃだめ。だめ！

弦軌　なんだとき。

ばあちゃん　大切なのはお面じゃなくて、お前がお祭りにでることだろう？

常　お面があつて、お祭りなの！

弦軌　たかだかお面だろ？

リン　それは違う。

弦軌　え？

リン　それじゃあ常をないがしろにしてる人といっしょ。

弦軌　誰が常をないがしろにしてるの？

リン　常には常のこだわりがあるのよ。

常　あたりまえだ！

リン　常がどっかに忘れてきたのかもしれない。

常　わすれてない！

リン　ほんとに？　言い切れる？

リン

常 ……もしかしたら……でも、わすれてない。  
リン 可能性がないわけじゃないよね。  
常 ゼロじゃない。  
リン じゃ、わたしたちが、探してくるから、常は家の中をくまなく捜して。  
常 家には…  
リン ないといい切れる？  
常 わかった。

ばあちゃん、常、弦軌去る。

転

外、町はずれ、祭りの音が聞こえている。  
なんだか焦って探している（キョロキョロしている）萌。  
落ち着いて歩いてくるリン。

萌 リン、いそがないと！  
リン 別に萌があせることないのよ。  
萌 だって。  
リン こまっているのは常で、萌じゃない。困ってるふりなんて、しなくていいの。  
萌 ふりなんて…  
リン 必要なのは一緒に困ってあげることじゃなくて事態を解決すること。今、しなくちゃいけないのはあせることじゃなくて、  
萌 お面を探すこと。  
リン それを含めて見つからなくても常に見つからなくても常に納得してもらおうこと。それだけよ。  
萌 ひどくない？ それ？  
リン その気もないのに同情してあげるほうがひどくない？  
萌 ……それ、リンの事よ。  
リン え？

萌、口がすべった、というしぐさ。  
萌、もしようがない、言っちゃたんだからという態度。

萌 弦軌さんのこと。  
リン ああ。  
萌 リンは弦軌さんのこと嫌いな？  
リン 私、いいのそういうこと。恋だとか、好意だとか、そういうこと全般。そういうことはいいの。  
萌 どうして？  
リン 萌は常がここに来る前のことは知ってる？  
萌 前に弦軌さんから…リンもそうなの？  
リン 私がちよっと違う。萌、この世界はだれが作ったと思う？  
萌 神様？  
リン じゃあその神様はだれが作ったと思う？  
萌 神様の神様？  
リン じゃあその神様の神様は？  
萌 きりがない。



リン そんなことをずっと考えさせられて、いや、考えてきたの。  
萌 答えなんて出ないんじゃないの。  
リン そうね。でも考え続けるの。いろいろとそんな問題ばかりあたえられて、体験させられて……精神年齢を飛躍的に、人工的に上げるために。

萌 精神年齢？  
リン 疑似的にファーストエイジを作り出すの。ファーストエイジの考えを知るためにね。そのためのモルモットなの。

萌 そんなこと言わないで、リン。  
リン いいのよ、別に。

萌 そんなこと。  
リン モルモットは檻からでたら生きていけないの。実験用のネズミはたとえ望んでも人間にはなれないの。  
萌 リンが勝手にそう思っているだけ。

リン うん、そうよ。  
萌 弦軌さんはそんな……だからリンが好きなのよ。

リン うん。そうね。  
萌 だから……なんで？　なんで私、リンとこうして話をしているのに、どうして……

リン 私にはわかるよ、萌の言葉が、考えが。

萌 でも通じてない。

リン 萌は頭がいい。

萌 私、リンに友達をしてもらっているの？

リン うん。そうね。私、あなたの自慢の友達になれるよ？

萌の後方を林森さんが通り過ぎ去る（萌は気がつかない）。手にお面を隠すように持っている。

リン どうしよっか？　私、公民館の方見てくるけど、萌は？  
萌 じゃ、神社の方に見てみる。

別れる二人。  
萌、振り向いて。

萌 かわいいそうなんていったらだめ？  
リン ……だめ。

転

公民館。

林森さんが立っている。  
リンがやって来る。

リン 林森さん。こんばんわ。

林森 一人、だろうね。

リン ええ。

林森 どうしてわかった？

リン いいじゃないですか。そんなことは。

お面を取り出す林森さん。

林森 別に悪意があったわけじゃないんだ。ただつい、子供の事を思つて……

リン 時間がないんです。

林森 わけあつてのことだったんだ。

リン 返してください？

林森 返さないなんて言つてないだろ。ただ、君は誤解しているだけなんだ。

リン お祭りがはじまるんです。返してください。

林森 話を聞けよ！

リン しようがないな。

林森 だいたい、初めからいけないんだよ。最初に配役を……

リン もういいです。

林森 は？

リン 泥棒。

林森 ちがう！ なんだ、なに言いだすんだ？

リン 人のものをとつたら泥棒だつてお母さんから教わらなかった？

林森 ばかにするな！ ちがうんだ！ よく聞け！

リン なにがちがうんです？

林森 確かに常君のバッグから拝借はしたさ、だけど……

リン 認めるんですね。盗んだつて。

林森 違う、だから。その、別に悪意があつたわけじゃないんだ。いいじゃないか。お

面なんて。

リン はー（わざとらしいため息）。林森さんて、みなさんが言つてる通りの人なんで

すね。

林森 皆、皆が何をいつてるんだ？ 皆つてだれだ？

リン あんまりよく思つてないみたいですよ。あの人は付き合いつづらいつて。

林森 誰が、誰がそんなこと言つてるんだ。え？ 嘘だろう、そんな嘘ついて……

リン、そつと林森さんからお面を奪う。

リン そうですよね、あんな噂なんて嘘みたいなものだから。信じない方がいいですよ。

林森 噂？ 噂つてなんだ？

リン いや、ひどい嘘ですから。

林森 い、いいから。

リン そうですか？ 実は……

萌がやつてくる。

萌 リン！ やつぱりここにあつたのね。

萌、リンからお面を取る。

リン 萌。

萌 あ、林森さん。こんばんわ。

林森 あ、ああ。しかし、細島くん。

萌 リンがどうかしたんですか？

林森、自分がカメラを持っていることを確認する。

林森 ああ、いや、お面のことは？  
萌 あ、林森さんも探しててくれたんですか？ ありがとうございます。でもここに、  
リン 公民館にあったみたいですから。ね？ リン。公民館にあったんだよね。  
林森 ええ。  
萌 あ、あ、そうか。  
林森 タキ君が探してましたよ。  
萌 あ、そう。わかった。じゃあ。さよなら。

林森さん、そそくさと去る。

リン 萌。なんで？  
萌 リンはいいつもそうしているでしょ。リンが恨まれる必要ない。  
リン 恨まれる？ そんなへまはしない。  
萌 あの人は、純ちゃんとタキ君のお父さんのよ。  
リン ……ごめん萌、無理させちゃったね。  
萌 ……うん。無理しちゃった。  
リン 萌はそんなの似合わない。  
萌 私のないを知ってるの？  
リン 知らない。知らないけど言っちゃだめ？  
萌 リンはずるい。  
リン うん。萌に助けてもらっちゃった。  
萌 じゃ、一つお願い聞いて。  
リン なに？  
萌 私、弦軌さんが好き。  
リン 知ってる。  
萌 一緒にお祭り行こ。私ちゃんと言うから。伝えるから。リンも答だして。  
リン ……そうね。わかった。  
萌 うん。

転

おばあちゃん家。  
常、やって来る。

常 お面！  
リン 公民館に置きっ放しだったの。  
常 うそ？  
リン うそでもなんでも。萌が見つけてくれたのよ。  
常 萌、ありがとう。  
萌 ううん。さあ、時間ないんじゃないの？  
常 ああ。そうだ。  
リン 萌と常は先に。私、浴衣もって行くから。  
萌 うん。  
リン 大丈夫、逃げたりしないから。  
萌 うん。常、急ご。  
常 うん。

常、萌、出て行く。  
ばあちゃんやっ来て来る。

ばあちゃん 常たちは？

リン 先に行った。リカちゃん浴衣は？

ばあちゃん さっき弦軌がいちど来て、持ってった。会場に更衣室があるだろ？

リン そう。じゃわたしも行く。

ばあちゃん 結局行くのかい？

リン 萌のためにね。

ばあちゃん 萌のためにはいい。お前は私じゃないんだから無理することないんだ。お前なりに生きれば

いい。

リン 知ってるよ、そんなこと。

ばあちゃん 知ってればいいってもんじゃない。

リン ……そうね。じゃ、行って来る。

ばあちゃん ……

リン 去る。

ばあちゃん さて。

ばあちゃん、去る。

固定電話が鳴る。

ばあちゃん、戻ってきて電話に出る。

ばあちゃん はい。ああ。彼菜（カレナ）か。ああ、久しぶりだ。このあいだは牡蛎を

りがとう。萌？ 萌は今出てる。ああ。萌がどうした？ 彼菜、お前、どこにいる

んだ？ ……東京？

転

お祭りの本番。

常、がんばって。  
 常。うん。ありがとう。  
 常。

萌 お願いがああるの。  
 常 なに？  
 萌 常、弦軌さんのお面分かるでしょ？  
 常 あたりまえだろ？ で？  
 萌 あのね、お祭りの最後で私と弦軌さんを選んでほしいの。  
 常 え。でも。  
 萌 お願いい。無理言ってるのはわかってるし、ずるだけど……  
 常 いいよ。萌のたのみならいいよ。でも、これっきりだぜ。  
 萌 ありがとう。わたし紫のお面だから。

と、紫のお面を見せる。

常 ムラサキのやつね。わかった。じゃあね。

常、手をふって会場に。  
 萌、見送る。  
 純がイザナミの衣装を着てやってくる。

萌 純ちゃん？  
 純 こんにちは、萌さん。  
 萌 純ちゃん。かつこいいね。  
 純 ありがとう。  
 萌 がんばってね。  
 純 うん。がんばる。

萌、去る。

純、お面を被る。  
 太鼓の音。  
 お祭りの子供神楽が始まる。

常（ヒノカグツチ）、お面を被って登場。

常 母様、母様あのね……、きょうは遠くまで行ったよ。闇のはるか先まで。  
 純 ……  
 常 ……うるさい子だね。アタシは今、だれとも話しをしたくないんだ。  
 純 ……  
 常 ……お願いがあるんです母様。  
 純 ……  
 常 ……お願い？  
 純 ……  
 常 ……母様どうかお許してください。

常 母様どうかお許しください。人間をただ一つ、ただ一つだけ黄泉より帰してやりたいのです！  
純 現世（うつしよ）にですか？  
常 はい！  
純 だめです。  
常 どうしてですか？  
純 決めたのよ。私は現世から人間の命を奪うと。奪う者が与えることはできません。ただ一つ、ただ一つのつがいだけです。  
常 愛着か？ 特別な愛着などもってても、我々と人間とがわかりあうことなどありえないのですよ。  
常 それでも。

間

純 ヒラサカの闇をこえられるか？  
常 ヒラサカが暗闇なら我が身より生みやどりし炎、導べとして差し出しましょうぞ。勝手にするがいいさ。

純、去る。

常 （正面を向いて）聞け、命失いし者共よ。

黄泉の主たる、イザナミノミコトよりの特別な恩情である。  
今日この日、ただ一つ、ただ一つの男女のみ。  
奪われし命、今一度、今一度貸あたえようぞ。  
現世に未練のある者はいないか？  
現世に戻りたい者はいないか？  
この期をのがすな。  
さあ踊れ。  
さあ踊れ。  
私の目に止まりし、ただ一組だけ。  
我が力にて黄泉がえらせん。  
さあ。踊れ。

常、去る。

踊りが始まる。色とりどりのお面をかぶった人々が踊り始める。

タキ（スサノオ）、やってくる。

タキ これより先は生者の領域である。いかなる者も、この道を逆上ることかなわん。命失いし者は即刻立ちされい。

常 兄さん。

タキ お前か。

常 父様の使いですか？

タキ オヤジ？ あの人が理屈で行動などするものか。

常 ならなぜ、私を止められるか？

タキ 摂理だよ、摂理。

2人、剣舞。

お面たちが踊り続ける。

タキ なぜ人などに恩をつくる？

常 男と女は子をつくります。2人は私の手で黄泉より救われたことを伝えるでしょう。子はまたその子に、またその子に、長きにわたり伝えるでしょう。

タキ だから？

常 世界は今に人のものになるのです。

タキ 人間の？ 何をばかな。

常 人間の数は増え続けているのです。

タキ やつらの命は短い。

常 だから我々はどうんぞ忘れられていくんです。

タキ それがなんだというんだ。

常 私は忘れられたくないのです！

タキ、 鉾を常につきたてる。

常、 鉾をかわして、 剣を一閃。

タキ く。

タキ、 膝を落とす。

ヒラサカに炎があがる。 光。

タキ、 立ち上がる。

タキ 馬鹿げた夢だ……好きにしろ。恩をかけた人間どもが生まれ、悲しみ、死ぬ様、

永遠に見続けるがいいさ。それが節理を犯したお前の業だ。

タキ、 去る。

常 ……さあ！ 決めようぞ！

常、 舞台をぐるっと回る。

お面たちは止まっている。

常、 青いお面の男と紫のお面の女の手を取る。

常 決めたぞ！ この2人だ。この恩、末代にわたるまで語り継げ、一人の神の力で

現世にもどれたこと。お前たちを見守っているものがいること。どうか、どうか、  
忘れないでくれ！

男がお面を外す。 弦軌だ。

女がお面を外す。 リンだ。

常、お面を外す。

常 あれ？ リン？

弦軌がゆっくりと手を差し出す。

リン、苦笑にも似た軽い笑みを浮かべながら、その腕を握る。

喪服1 今年の現世がえりが決まったぞ。さあ祝福だ。さあ踊ろ、さあ踊ろ。

再び踊り始めるお面たち。

常、純、タキ、輪に加わる。

弦軌もリンも。

黄色いお面の女が輪から離れる。

女がお面を外す。萌だ。

踊りの輪が去って行く。

喧噪は続いている。

おばあちゃんがやってくる。

萌 おばあちゃん。

ばあちゃん ……。

萌 どうしたの？お祭り見に来たの？ おばあちゃん一緒に見に行こうよ。

ばあちゃん 彼菜から連絡が来た。

萌 彼菜おばさん？

ばあちゃん 真知が倒れた。すぐ東京に帰るんだ。

転



おばあちゃんの部屋。  
リンが荷物をまとめている。

リン タオルは？  
ばあちゃん いい、それぐらいあるだろ？ 歯ブラシはいれといて、あれは手にはいんな

いんだから。

リン 入れたわよ。

ばあちゃん さて、あいつらはどうかな。

リン たぶん……見てくるよ。

ばあちゃん たのむよ。

リン 萌のお父さん。KALMAなんでしょ？ 大変ね。

ばあちゃん ああ、萌もな。

リン 違う、梨花ちゃんよ。急に優しくなんてしたら逆効果なんだから。

ばあちゃん あたしをだれだと思ってるんだ。

リン 強がるなよ。……梨花ちゃん、私のほうが長生きしてあげるからね。

ばあちゃん リン。

リン 大丈夫、私の人生なんて30年くらいなんだから。

萌の部屋。

荷物をつめている萌。

それを見ている常。

常 KALMAに発病した人間は、発病後、3時間から7日のうちに死にいたる。こ

れはセカンドエイジにとって当然のことなんだよ。

常 だまって。

萌 げんだいのけんきゅうでははつびようしたかんじのすうじかんたんいでのおん

めいはかのうでもはつびようしてから7日以上せいぞんしたぜんれいはひとつも

ないんだ。

(ボソツと) 前例はでしょ。

常 萌のお父さんだけがとくべつなわけないだろ？

………。

常 萌のお父さん31とか2だったんだろ？ 十分長く生きたじゃないか。

萌、常を叩く。

常 なにすんだよ！

萌、常を叩く。

常、萌を叩く。

萌、常を叩く。

ケンカになる。

リンとおばあちゃんがある。

常 リン そろそろ準備……(2人を見て) やめなさいよ！  
萌が悪いんだ。

萌、常を叩く。  
常、萌を叩こうとする。

ばあちゃん 常！  
リン 怒るのもいいよ。いらいらするのもいいよ。でもすることがあるんでしょ？ 行  
かなくちやいけないでしょ？  
ばあちゃん いくよ。

おばあちゃんがでていく。

常 俺悪くないもん。  
リン 常。  
萌 ……

常がでていく。  
萌も出て行こうとする。

リン 萌、ありがとうね。  
萌 ……  
リン また、遊びに来てね。  
萌 ……  
リン きつとね。

萌、去る。

転

空港。  
搭乗券のチケットカウンター。  
おばあちゃんが空港職員と話してしている。  
まっている萌と常。

空港職員 もうしわけありませんが、8月中旬のこの時期、すぐにキャンセルがでる確率  
は正直いいまして、ええ。  
ばあちゃん 正直言っていないじゃないか。  
空港職員 ええ、えー正直いいまして難しいと言わざるをえませんで。はい。

ばあちゃん いそぎなんだ。  
空港職員 と、もうされても…この時期の混雑は毎年の事です。失礼とは思いますが  
が、どうして席を予約なされていなかったのですか？ そうすればキャンセルな  
ど…  
ばあちゃん それぐらい急ぎなんだ。…電話、かしてもらえないか？

空港職員、固定電話の受話器をおばあちゃんに渡す。  
おばあちゃん電話をかけている。なかなかつながらない。

萌 (空港職員に対して) あのだ。  
空港職員 はい？  
萌 私も電話おかりしていいですか？

空港職員、別の電話機から受話器を取り、萌に手渡す。  
萌、受話器を受け取り、自宅に電話をかける。

おばあちゃんの電話がつながる。

おばあちゃん 鷹野といいます。ええ。梨花です。わるいが大統領執務室につないでくれないか。うん。鷹野からって言えばわかるから。

しばらくして。

おばあちゃん よお。

大統領電話をもって登場。  
サングラスのSPが両脇に立っている。

大統領 めずらしいじゃない。電話なんて。

おばあちゃん ちよっと急ぐ用事ができてね東京に行かなくちゃならないんだが、あいにくチケットが取れなくてね。

大統領 そりや大変だ。で？

おばあちゃん あんたのエアフォースワン（大統領専用機）貸してくれないか？

大統領 ……はははははは…マリリン・モンローだってそんなこたあ言わなかっただろうぜ。

おばあちゃん 貸すのか、貸さないのか？

大統領 貸せるかよ。あれは公費で動かしてんだ。

おばあちゃん 飛行機ならなんだったっていい。

萌の電話がつながる。

萌 もしもし。萌です。あ、彼菜おばさん！？え？うん…

大統領 私の家用機なら…いや、ダメだな。おばあちゃんが一般人ならなあ…

おばあちゃん 出せるのか？ 出せないのか？

萌 おばあちゃん。

おばあちゃん、萌の方を向く。

萌、おばあちゃんに電話をわたしながら、

萌 彼菜おばさんが変わってくれって。

おばあちゃん （大統領に）ちよっと待ってな。（彼菜に）はい、ああ、そうだ。………

………そうか。わかった。うん。私から伝える。うん。

おばあちゃん彼菜との電話を切る。

おばあちゃん、大統領の電話に出る。

大統領 もしもし。

おばあちゃん ああ。

大統領 なに？ どうしたの？

ばあちゃん 無理言つて悪かった。  
大統領 あ？

電話を切るおばあちゃん。

萌 なにがあつたの。  
ばあちゃん (空港職員に) ありがとう。  
空港職員 あ、いえ。

空港職員、受話器を受け取り去る。

萌 おばあちゃん！

萌を見るおばあちゃん。  
心配そうに見返す萌。

ばあちゃん …… (長い沈黙の後) …… 電車で行こうか？

萌、おばあちゃんにしがみつく。

萌 なんで！ なんで！ なんでいそがないの！ おばあちゃん。なんで。いそがないと、いそがなくなっちゃ、お父さん病気で、苦しんでるだよ。私、おとうさんに…  
…おばあちゃん、なんでいそいでくれないの！

転

回想。  
5年前、萌のお母さんの通夜。  
イスに座って泣いている真知。  
萌もイスに座る。

真知、うつむいたまま。

萌 ……お父さんもう泣かないで。

真知 泣きたいんだよ。

萌 お通夜はじまっちゃうよ。お母さん、お父さんが泣いてたら悲しくなっちゃうよ。  
真知 ぼくが一番かなしいんだよ。

萌 お父さん。

真知 ごめんね萌。君もかなしいのにね。

萌 ……かなしいよ。

萌も泣きそうになる。

喪服6 がやってくる。

喪服6 真知君、おばあちゃんが着いたよ。ほら。

おばあちゃんがやってくる。

喪服去る。

真知の正面の席に座る。

真知 おばあちゃん。

おばあちゃん どんなにつらくてもいつかは笑えるさ。今は泣けるだけ泣けばいい。

真知 ……僕はいいんです。だけど、あいつは、あの人は幸せだったんでしょか？  
僕なんかのために。僕はあの人の人生の何割かを奪ってしまったんじゃないかって。

おばあちゃん まあ、そうだろうね。

おばあちゃん萌を見る。

おばあちゃん 萌だね。

萌 はい。

おばあちゃん お前は、お前のお母さんから生まれてよかったかい？

萌 え？

おばあちゃん お父さんとお母さんの子供でよかったかい？

萌 うん。わたしお父さんとお母さんの子よ。そうじゃなきゃ、いや。

おばあちゃん (真知に) 幸せだったよ。いい人生だったよ。十分だろ？

真知 (泣きながら) ……。

おばあちゃん さあ、いかなくちや。

真知 はい。

真知、立ち上がり、去る。

おばあちゃん、鼻歌を歌い始める。おばあちゃんの若いころの流行歌。

光が流れて行く。  
車体が揺れる。

現在。

新幹線の中。

(回想終了)

おばあちゃん、5年前と同じ歌を歌っている。萌が目を覚ましたことに気がつき、歌をやめる。

ばあちゃん ……起きたかい？

萌 夢を見た。お母さんが死んだ時のこと。

おばあちゃん そう。

萌 おばあちゃん。私に「お母さんの子供でよかった？」って言ったの。

ばあちゃん そうだよ。

萌 ……お父さんすごく泣いてた。

ばあちゃん そうだね。

常が帰ってくる。

おばあちゃん、ハンカチを渡す。

常、手を拭きながらイスに座る。

常、ハンカチを渡す。

車内案内が入る。

車内案内

本日はJR北太平洋線をご利用ありがとうございます。当列車の目的地、東京へは現地時間、午後3時14分を予定しております。次の停車駅はホノルル。ホノルルを出ますと次は木更津に止まります。

案内が終わる。

車両のドアが空く音。

妊婦の娘とその母親が入ってくる。

母親

遠慮しなくていいのよ？

娘

いっていつてるでしょ？ 荷物ぐらい。

母親

そう？ でも、大事な時期だから。

と、いって母親、娘から荷物を取る。

母親

あ。

母、バランスを崩して倒れる。

娘

何やってるのよ！ とろいんだから、よけいなことしないでよね。

常、荷物をひろって、母親に渡す。

母親

すいません。すいません。

常

座る？

ばあちゃん

常、いいのかい？

常　うん。  
母親　いいんですか？　ありがとうございます。ホラ。

母親、おばあちゃんの前の席にすわる。

娘　　いいよ。

母親　せっかく譲っていただいたんだから。

娘　　いいって。

母親　そう……。すみません、いいって（言ってますので……）  
娘　　座らないなんていってないでしょう。バカ。

娘、萌の前に座る。

常、萌のわきに座りこむ。

母親、おばあちゃんを見ている。

母親　あの、失礼ですけど、タカノさん……ですよ？　ファーストエイジの。

おばあちゃん　ええ。

母親　やっぱり。

母親、握手を求める、おばあちゃん受ける。

娘　　はるかしいことしないでよ！

母親　お前も握手してもらいなよ。めったにあることじゃないんだから。

娘　　いいわよ。

母親　赤ちゃんのためにもね。タカノさんみたいに長く生きられるようにね。

母親　……別に生みたいわけじゃないんだから。

娘　　いまさらそんなこと言わなくても。

母親　あんたがどうしてもって言うから。後悔してるんだから、生むって決めたの。

母親　ごめんね。ごめんね。母さん、無理をいっちゃって、でも、それがしあわせなの

よ。　　勝手にきめないでよね。バカ。

母親　……（おばあちゃんに）すみません。

おばあちゃん　いえ。

娘　　（萌に）アンタ、私と同じくらい？　いいなあ。まだ子供なんていないんですよ？

萌　　………

娘　　いいなあ。面倒くさいわよ。生まれたら生まれたで育てて行かなくちゃいけない

し。　　あたりまえでしょ。

萌　　あー面倒臭い。アンタ、タカノさんの親戚かなにかなんでしょ？　いいなあいろ

いろといいことあるんでしょう？

母親　お父さんのファーストエイジのおじいちゃんも結構長く生きられたのよ。210

0年代中頃まで。

娘　　バカ、そんなのフツーじゃない。この人は最後の一人だから価値があるのよ。

母親　そんなこと……

娘　　もー、何か飲むものない？　喉かわいた。

母親　ちよっとまってね。

母親　ちよっとまってね。

母親、荷物から飲みものを取り出す。

母親 あけてあげるから。

娘 いいわよ。

母親 ん。

母親、力を入れて蓋を空けようとする。

空けた瞬間、勢いがついて飲み物を落とす。  
娘に液体がかかる。

娘 熱っ！

母親 ごめんなさい。熱かった！？

娘 なにやっつてんだよ。バカ、おまえなんか死んじゃえ！

萌、立ち上がり、娘を叩く。

萌 あ。

娘 なにすんのよ、いきなり！

おばあちゃん、ずっと立ち上がり、娘の前に立つ。

おばあちゃん ごめんなさい。大丈夫？

娘 なんだ（よ）

母親 あの、

おばあちゃん うちの孫が申し訳無いことをしました。あのこれは、治療費といっってはなん  
なんです。

おばあちゃん、母親にいくらのお金を渡す。

母親 そんな、いえ、

おばあちゃん それでは、失礼します。さ、

おばあちゃん立ち上がる。

萌、立ち上がり、駆け足で去る。

常 俺も？

おばあちゃん ああ、立っていてもいいだろ？

常 うん。

おばあちゃん、常、去る。

転

電車の乗降口近く。

萌はうづくまっている。

その左右におばあちゃんと常



ばあちゃん　つかれたかい？

常、首を振る。

常　お父さん、お母さん。

ばあちゃん　ん？

常　萌のお父さん。ジュンとタキのお父さん、お母さん。あの子のお母さん。あの子もこれからお母さん。

ばあちゃん　で？

常　俺、お母さんいないの？

ばあちゃん　さびしいかい？

常　なんで？

ばあちゃん　そうだね。

常　うん。

ばあちゃん　私も昔、母親だった。

常　おばあちゃんが？　うそだあ。

ばあちゃん　ウソだったらお前は存在しないことになる。お前は私の子供の子供の子供の子供の……

常　そんなに？

車掌がやってくる。

おばあちゃんを見つける。

車掌　あの、タカノさん、ですよね。

ばあちゃん　なにか？

萌が顔を上げる。

車掌　切符を拝見したときに覚えていました。乗車されていたと。

ばあちゃん　で、なんです？

車掌　医務室はあるのですが、勿論、応急手当ぐらいしかできません。下痢ですとか、頭痛を訴えるお客さんぐらいですから。

ばあちゃん　要領を得ない。私に何をさせたい？

車掌　以前、なにかで読んだことがあります、タカノさんは助産婦の資格をお持ちで、えっと、だから……

ばあちゃん　だから？

車掌　妊婦さんがいまして、乗客の中に。

立ち上がる萌。

ベッドが運ばれてくる。

ベッドの上の妊婦の娘。

付き添う母親。

娘　痛い、痛いよ！

母親　しっかり、大丈夫だから。

常　さっきの。

母親　タカノさん。

ばあちゃん 先程は失礼を。

母親 いいんです。

ばあちゃん 一応、助産婦の経験はあります。

母親 ほんとうですか？ おねがいできますか？

ばあちゃん 緊急の場合は。破水もまだのようすし。

車掌 おまかせしてよろしいでしょうか？

ばあちゃん よろしくない。責任者を呼んでくれないか、責任の所在を明確にしてくれ。

車掌 はい。呼んで来ます。

娘を見ている萌と常。

苦しそうな娘。

その手を握る母親。

母親 もう、大丈夫だからね。

ばあちゃん と、言い切るにはまだ早い。

おばあちゃん、カバンの中から手術用の手袋を取り出す。  
サングラスはメガネに掛け替えている。

娘 痛い、痛いよ！

母親 大丈夫、お母さんここにいるよ。大丈夫よ。

娘 はあはあ、お母さん？助けて。

母親 うんうん。ずっと手を握ってあげてから。心配しないで。

娘 (少し笑って)お母さん。ずっとそばにいてね。

萌 バカじゃないの！！

萌、駆け出す。

常 萌！

常、追いかけてよとする。

おばあちゃんを見る。

ばあちゃん 常。行ってくれ、萌を頼む！

常 常、去る。

母親 あの。

ばあちゃん あなたは娘さんの心配をしていればいい。さあ。

母親 は、はい。

母親、おばあちゃん、ベットを押しながら去る。

転

公衆電話の前。

出張帰りのお父さん(平忍)が電話をしている。

平 大丈夫。うん。会社に寄っても夕方には帰れるから。うん。あ、うん代わって代わって。(娘さんと代わっている)ばー。誰だかわかりましゅかあ？ パパで：あー泣かないで泣かないで。お土産買って来ましたからねえ。もうちよつとまってるね。はーい。(奥さんと代わって)それじゃあ。うん。そうだね。いや、うちでたべたいな。うん。そうだなあ。

萌がやってくる。  
常が追いかけてくる。

常 萌。  
萌 ……  
常 萌、行こ。  
萌 どこに？  
常 どこ？ うーん…：さっきのところ？  
萌 いや。  
常 やなの…：んーでも。  
萌 なに？  
常 もどらなくちや。  
萌 どうして？  
常 え？ …：わかんないよ。  
萌 じゃ、いいじゃない。  
常 じゃあどうするの？

萌、窓の外を見て。

萌 ねえ。常。  
常 ん？  
萌 死んじゃおうか。  
常 死ぬ？ 死。  
萌 もどるところなんてないじゃない。  
常 ない？  
萌 意味ないじゃない。  
常 ……  
萌 ね。  
常 うん。いいよ。でも、どうやって。

平、二人の会話をずっとときいている。

萌 窓、電車、数百キロとかで走ってるの。一瞬よ。  
常 一瞬…。  
萌 そう。すぐに終わるよ。  
常 ま、窓、開かないよ。どうするの。  
萌 開かないなら、割ればいいのよ。

萌、平の所にやってくる。

萌 電話、終わったら貸して貰えますか？

平 あ、いや。え？（まだ話中であつたことを思い出し奥さんに）あ、ごめん、ちよつと大変なんだ。いや、俺は大丈夫、うん、また電話する。

受話器を置く。

平 いいですか？ 電話。  
萌 公衆電話？ 投げるの？ 投げて割るの？  
平 はい。

平 ちよつとまって……えつと……うんと。だめだあ。こういうときって……  
萌 ごめん、月並みで……早まるのはやめてみない？  
平 いえ。

平 なにがあつたか知らないけど。やめようよ。

平 知らないのにどうして止めるんですか？

平 それ……自殺なんてよくないから、人間は……えつと……ごめん……俺ね、単身赴任から帰るところなんだ。9月から本社勤務なんだ。半年ぶりで子供に会うんだ。ホラ、お土産ね。

と、お土産を見せる。

平 いま、ウキウキなんだ。幸せなんだ。こんなところで死なれちゃ困るんだ。つらくなるでしょ？

平 それじゃ、ほかでします。

平 だめだよ。俺、ほら、知っちゃったもの。止めるもの。

平 私の人生ぐらい好きにさせてください。

平 俺がかわつちやつたもの。この共有している時間は僕のものでもあるんだ。勝手なことされちゃこまるよ。

平 萌、やっぱりやめよ。俺、死ぬのやだ。

平 我がままはいわないの。

平 ごめんなさい。ゆるして。萌。

常 おばあちゃんがやってくる。  
常 おばあちゃんにかけよる。

常 萌、おばあちゃんを睨む。  
常 おばあちゃん。萌が、萌が死ぬっていうんだ。俺いやだ、死ぬのいやだ。萌も死ぬのやだ。どうしよう。おばあちゃん。どうしよう。

萌、おばあちゃんを睨む。

萌 おばあちゃん 本当に死にたいなら、だれにも言わずにやりな。かまってほしいなら、かまってくれればいいな。赤ちゃんじゃないんだから言えるだろ？ 死ぬ気もないのに死ぬ死ぬいうな。

萌 そんなことない。死ぬんだ！

萌 おばあちゃん どうやって？

萌 おばあちゃん 電車から飛び降りて。

萌 おばあちゃん 飛び降りたって死にやしないよ。

常 ！

平 電車……止まつてる。



萌、おばあちゃんを見る。

萌 ……おばあちゃんは私のことも、ずっと覚えててくれるの？

おばあちゃん ああ、そう決めたんだ。200年も前にね。

萌 私が死んじゃったら、私の中のお父さんも、お母さんも消えちゃうんだね。お父

おばあちゃん お父さんもお母さんももう新しい思い出を作れないから。

萌 ……私が覚えていなくていいから。

転

東京、国分寺。  
葬儀場の近く。

おばあちゃん、萌、常。到着する。  
彼菜がやってくる。

彼菜 萌ちゃん。  
萌 彼菜おばさん。

彼菜、おばあちゃんにお辞儀。

彼菜 萌ちゃん。急にこんな……

萌 お父さんは？

彼菜 ええ。こっちに。向こうで着替えをしなくちゃね。

萌、常とおばあちゃんを見る。

萌 おばあちゃん。常。

おばあちゃん。

常 萌。

萌、無理にちよつと笑う。

彼菜 おばあちゃん、すぐうちの人に来るから、

おばあちゃん ああ。

萌、彼菜、去る。

常 萌、笑った。

おばあちゃん そうかい、うれしいかい。

常 うれしい？ うん。うれしい。

おばあちゃん だれだって、笑ってほしい人が笑ってくれたら、うれしいもんだよ。そいつが死ぬほど苦しくて酷い状態で、無理に笑ったとしても。いや、だからこそうれ

しいんだ。ひどいねえ。

常 ? よくわかんない。うれしんでいいの？ 悲しいの？

おばあちゃん 喜んでいいだろう？ 一緒に悲しんで泣いてやることなんてできないんだか

ら。だから、悲しんでいた萌のことを覚えておいてやりな。

常 うん。

時代が変わる。

西暦2245年。鷹野萌の通夜。

おばあちゃんと、鷹野現が駆けつけたところ。

喪服7がやって来る。

喪服7 おばあちゃん、よく来てくれたなあ。

お前の為に来たんじゃない。

喪服7 つかれたろ？

ばあちゃん あたしはいいから。先に線香をあげさせてくれないか。  
喪服7 ああ、こっち。

喪服1と喪服2、遺体の乗ったベッドを運んで来る。  
白いシーツを被った遺体。

喪服たちは去る。

おばあちゃんと鷹野現（アラタ）、遺体のそばによる。

おばあちゃん現をそっと前にうながす。

現、ゆっくりと遺体の頭部にかかっているシーツを持ち上げる。

おばあちゃん、サングラスを外す。

ベッドの上の萌はまるで生きてるように眠っている。

泣き出す現。

ばあちゃん 久しぶりだな。萌。

現 ただいま……お母さん……

ばあちゃん 萌の父親……あんたのおじいちゃんが亡くなったのも、萌がうちに遊びにきていた時だったよ。

現 なんで、なんで人間は死んでしまうんですか？

ばあちゃん 生まれたから。

現 生きることの意味なんてあるんですか？ 結局亡くなって、しまうのに。

ばあちゃん お前は無意味なものに対して泣いているのか？

現 ……うううう……

現、一層強く泣く。

ばあちゃん 私にも答がある訳じゃない。本当は意味なんてないのかもしれない。

泣いている現。

おばあちゃん頭を横にゆっくり振り、またサングラスをかける。

ばあちゃん お前はお前の母さんの子でよかったかい？

現、おばあちゃんを見て、おばあちゃんのその言葉を飲み込んでから、  
ゆっくりとうなずく。

おばあちゃんが、現の肩に手を置く。

喪服たちがやってくる。

現にハンカチを差し出す喪服1。

シーツを直す喪服7。

おばあちゃんに声をかける喪服2。

花をもって来る喪服3と6。

ベッドを運ぶ4と5。

喪服3

鷹野梨花はその長い一生のうちに3人の子供を生み。孫、ひ孫、玄孫……753  
人の出産にたちあい、3人の子供と506人の孫たち、393人のその配偶者



たちの葬儀に出席した。

喪服 2 西暦 2 2 4 9 年、鷹野梨花は 2 4 7 人の孫に見送られて 2 6 2 歳でこの世を去る。

喪服 1 緒秦弦軌の死から 9 年、細島厘の死から 1 3 年。

喪服 4 大多常の死から 7 年、鷹野萌の死から 4 年ほど、後のことである。

喪服 6 さようならファーストエイジ。

常（役の演者） 昔そばにいて、今は記憶の中にしかない人達に。

暗転。

カーテンコール。

終わり